



自覚と決意を新たに
二十歳のつどい



1月7日(日)13時30分より保原体育館で開催され、旧5町の553人が大人への第1歩を踏み出しました。新成人らは幼少期に東日本大震災東電

第1原発事故を経験、10代後半はコロナ禍に見舞われました。今を生きる大切さを確認し、自分の意志と力で困難を乗り越えて下さい。

小正月のだんごさし

1月12日(金)

講師は郷土歴史研究家の遠藤利夫さん。保原幼稚園年長・年中の園児たち70名が参加し行われました。団子等を飾り、願い事を書いて枝につけました。



日本中が浮き立っていた元旦

理事長 佐藤貞夫

能登半島地震での甚大なる被害に只々胸が痛み、東日本大震災を想起させられ愕然とする。被害者の過酷な環境には察するに余りある。全ての犠牲者のご冥福と歯痒い状況が続いているが被災地の早期復興を祈念する。

「天災は忘れた頃にやって来る」は寺田寅彦(物理学者)の言だが、近年は「天災は忘れないうちにやって

来る」と言われ、日頃から防災意識を高めて対策を講じる重要性を改めて痛感する。遅らばせ乍ら当町内会でも急遽防災訓練を行政の指導の下、計画し実行したところである。

今回の能登地震で感じたことは、停電下では万能と見做される人工知能(AI)も無力に等しく、結局は極限の事態に置かれた時、最も頼りになるのは人間同士の繋がりにあり励ましである事を身に染みて知った。

新年度は次代を担いゆく中長期的な人材育成を全力で進めたい。

伝統製法復活へ

玉鈴醤油(株)

四代目社長 鈴木 利幸

九五六年(昭和三一)、先代鈴木藤三郎は、江戸時代末期から続いた信達地方の豪商福井商店の醤油醸造を引き継ぎ、個人営業を開始しました。当時は醤油にうま味調味料を加味し、甘めの味で販売しましたが、コスト高で中々売れませんでした。

その後「玉鈴醸造元」の名称に変更し、有限会社玉鈴醤油店を設立。一九六二年(昭和三七)に工場を現在地に移転し、「玉鈴醤油株式会社」としました。

本社の醤油は、代々続く甘みのあの味付けが特徴です。安ければいい



というイメージから、醤油に調味料を加え、独自の味を造り出す為に試行錯誤を繰り返した結果、「甘さと塩味のバランスがとても良い」と「だし醤油のこだわり」と共に高い評価をいただいております。

伝統的な醤油造りの方法を後世に伝えようと「木桶仕込み」を復活させました。大量の仕込みが可能なタンクの普及などで木桶を使った製造は、近年わずかになってきました。手間がかかるものの唯一無二の味わいを生み出し、ブランドを確立していきたいと思えます。

先日、保原小学校の児童が見学に訪れました。私からの説明後、大桶となる木材に自分の名前を書きました。木桶の寿命は百年と言われており、未来へのメッセージとして企画しました。

カメラを覗くと



昭和42年まで使われていた保原小学校



昭和30年ごろの保原町4丁目(齋藤芳明様の作品)

■あとかぎ

▼能登半島大震災

被災された方々にお悔やみとお見舞いを申し上げ、一日も早い復興を願うものです。

去る2月25日(日)、柏町町内会集会所で50名が参加し、防災訓練(消火訓練、炊出し訓練、防災講話)を実施しました。

防災意識の再確認と町内会の親和・協向上に役立ちました。



▼アンケート調査

保原地区町内会長会では、36町内会の運営や活動等の取り組み状況を10項目にわたりアンケートをとりました。この程、集計結果がまとまりましたので、今後の運営に生かして参ります。

問い合わせ先

NPO法人保原中央自治振興会

住所

保原町字宮下一二一四(保原中央交流館二階)

電話

〇二四一五六三一一三三

FAX

〇二四一五六三一一三七

メール

t-shinkoukai@aurora.ocn.ne.jp